



Upper digestive tract abnormalities in dogs with chronic idiopathic lymphoplasmacytic rhinitis

Paola Gianella¹  | Silvia Roncone¹ | Ugo Ala¹ | Enrico Bottero² |
Federica Cagnasso¹ | Giulia Cagnotti¹  | Claudio Bellino¹

Introduction

- ・慢性特発性リンパ形質細胞性鼻炎（CILPR）は犬の鼻腔を冒す炎症性疾患であり、原因は特定されていない
- ・診断は他の鼻疾患の除外によってなされ、特異的な治療プロトコルがない
- ・人ではCILPRと消化器症状の関連が仮定されており、消化器症状の治療後に呼吸器症状の寛解が認められたが、犬では研究が少ない
- ・目的 1) CILPR犬は呼吸器だけでなく消化器にも異常が認められるかを調査すること
2) CILPR犬の消化器症状を治療した後、呼吸器症状が改善するかを評価すること

Methods and Materials

- ・ Prospective study
- ・ 組み入れ基準：慢性の上部呼吸器症状が3週間以上続いていて、CILPRの推定診断をうけた犬
CILPRは鼻粘膜に形質細胞とリンパ球の浸潤が病理組織学的に認められることと、他の基礎疾患の除外で推定診断された頭部と胸部のX線検査、気管支肺胞洗浄検査が行われ、上部呼吸器症状の原因となるCILPR以外の疾患を除外した
- ・ 気道（外鼻孔、鼻咽腔、気管、気管支）と上部消化管（中咽頭、食道、胃、十二指腸）の内視鏡検査を行い、鼻腔、胃、十二指腸粘膜のバイオプシーを行った
- ・ CILPR犬を3グループに分け、異なる治療を行った
グループ1 呼吸器症状に対する治療のみ行った（グルココルチコイドと抗生物質、一部は粘液溶解薬も用いた）
グループ2 消化器症状に対する治療のみ行った（プロトンポンプ阻害薬とH2ブロッカー、一部は加水分解タンパク食）
グループ3 両方に対する治療を行った（グルココルチコイド、抗生物質、H2ブロッカー、加水分解タンパク食）
- ・ 治療の効果は内視鏡検査後の15日目、2ヶ月目、3ヶ月目、6ヶ月目、12ヶ月目に評価された

Results

- ・ 25頭のCILPR犬が本研究に組み入れられた
- ・ 13/25頭の犬(52%)で消化器症状があったが、22/25頭の犬(88%)で内視鏡検査にて消化器病変が認められた(表1,3)
- ・ 消化器症状の有無に関わらず、80%以上の犬で鼻腔、胃、十二指腸にリンパ形質細胞性の炎症が認められた(表4)
- ・ 消化器症状のみを治療したグループの大多数で、呼吸器症状の寛解または明らかな改善が認められた(表6)

Discussion

- ・ 一部のCILPR犬は呼吸器だけでなく消化器にも異常が認められる
- ・ 人ではCILPRと胃食道逆流症（GERD）の関連が研究されており、胃酸の逆流が上部呼吸器症状の原因となることが仮定されている。本研究の結果より、犬においてもその仮定は除外できない

Review

- ・ CILPR犬に対して消化器治療を行うと呼吸器症状が改善する可能性がある
- ・ サンプルサイズが小さく、CILPRではない他の慢性疾患をもつ犬のコントロール群が無い
- ・ グループ分けの基準が明記されておらず、呼吸器症状の改善に関する評価が難しい
- ・ CILPR犬における消化器症状と呼吸器症状の関連にはさらなる研究が必要である

表 1 CILPRに罹患した25頭の呼吸器と消化器の臨床症状

臨床症状	頭数 (%)
くしゃみ	7 (28%)
くしゃみ 鼻汁	10 (40%)
くしゃみ 鼻汁 狭窄音	2 (8%)
くしゃみ 鼻汁 鼻出血	1 (4%)
鼻汁 逆くしゃみ	1 (4%)
鼻汁 狭窄音	2 (8%)
逆くしゃみ 狭窄音	1 (4%)
逆くしゃみ	1 (4%)
散発的な空咳	8 (32%)
嘔吐	7 (53.8%)
嘔吐 食欲不振 嚥下行為を繰り返す 暖気	2 (15.4%)
嘔吐 悪心 腹鳴	1 (7.7%)
嘔吐 流涎 間欠的な祈りのポーズ	1 (7.7%)
食欲不振 嚥下行為を繰り返す 暖気	1 (7.7%)
悪心 腹鳴	1 (7.7%)

表 3 CILPRに罹患した25頭の鼻腔、消化管の内視鏡所見

部位	内視鏡所見	n/t
鼻腔	両側性びまん性充血	25/25 (100%)
鼻腔	両側性びまん性浮腫	18/25 (72%)
鼻腔	両側性粘性分泌物	12/25 (48%)
鼻腔	両側性粘液膿性分泌物	2/25 (8%)
咽頭	びまん性充血 浮腫	2/25 (8%)
食道	充血 びらん	1/22 (4.5%)
胃	充血 浮腫	9/22 (40.9%)
十二指腸	びまん性充血 浮腫	1/22 (4.5%)
胃(1) + 十二指腸(2)	びまん性充血 浮腫(1,2) 粒度増加(2) びらん(2)	12/22 (54.5%)

表 4 CILPRに罹患した25頭の鼻腔、消化管の病理組織学的所見

部位	病理組織学的所見	n/t
鼻腔	Bilateral lymphocytic-plasmacytic inflammation 両側性リンパ形質細胞性炎症	24/25 (96%)
	Neutrophilic superimposition	9/25 (36%)
	Eosinophilic infiltration	2/25 (8%)
	Hyperplasia	25/25 (100%)
	Squamous metaplasia	3/25 (12%)
	Erosive neutrophilic infiltration	1/25 (4%)
胃	Lymphocytic-plasmacytic inflammation リンパ形質細胞性炎症	21/25 (84%)
	Neutrophilic superimposition	3/25 (12%)
	Eosinophilic infiltration	1/25 (4%)
	Fibrosis	4/25 (16%)
十二指腸	Lymphocytic-plasmacytic inflammation リンパ形質細胞性炎症	19/21 (90.5%)
	Neutrophilic superimposition	5/21 (23.8%)
	Eosinophilic infiltration	2/21 (9.5%)
	Villus stunting	11/21 (52.4%)
	Crypt dilatation	7/21 (33.3%)
	Lacteal dilatation	1/21 (4.8%)

表 6 CILPR犬の呼吸器症状追跡調査

治療グループ	15日 n = 22	2ヵ月 n = 22	3ヵ月 n = 22	6ヵ月 n = 21	12ヵ月 n = 15
呼吸器症状のみの治療 n=5	R (-) MI (5) P (-) RP (-) W (-)	R 2 MI (2) P (1) RP (-) W (-)	R (2) MI (2) P (-) RP (1) W (-)	R (2) MI (1) P (-) RP (-) W (2)	R (3) MI (-) P (-) RP (-) W (2)
消化器症状のみの治療 n=7	R (3) MI (3) P (1) RP (-) W (-)	R (4) MI (3) P (-) RP (-) W (-)	R (4) MI (3) P (-) RP (-) W (-)	R (3) MI (2) P (-) RP (1) W (-)	R (2) MI (2) P (-) RP (2) W (-)
呼吸器症状と消化器症状両方の治療 n=11	R (1) MI (4) P (5) RP (-) W (-)	R (2) MI (2) P (5) RP (1) W (-)	R (2) MI (2) P (4) RP (1) W (1)	R (3) MI (3) P (2) RP (1) W (1)	R (1) MI (-) P (2) RP (-) W (1)

R,寛解 MI,明らかな改善 P,持続 RP,再発 W,悪化